

法令及び定款に基づく インターネット開示事項

連 結 注 記 表
個 別 注 記 表

(2020年9月1日から2021年8月31日まで)

株式会社ワッツ

上記各事項につきましては、法令及び当社定款第12条の規定に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト(<https://www.watts-jp.com/>)に掲載することにより株主の皆様提供しております。

連結注記表

連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

1. 連結の範囲に関する事項

全ての子会社を連結しております。

- ・連結子会社の数……………6社
- ・連結子会社の名称……………株式会社ワッツ東日本販売
株式会社ワッツ西日本販売
有限会社リアル
株式会社ワッツ・コネクション
株式会社ヒルマー・ジャパン
Watts Peru S.A.C.

2. 持分法の適用に関する事項

持分法を適用した関連会社の状況

- ・持分法適用関連会社の数……………2社
- ・主な会社等の名称……………株式会社バリュー100、Thai Watts Co.,Ltd.

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日が連結決算日と異なる会社は次のとおりであります。

Watts Peru S.A.C. 12月31日

連結計算書類の作成にあたっては、連結子会社の事業年度に係る計算書類を基礎としております。

連結子会社のWatts Peru S.A.C.の決算日は12月31日ではありますが、6月30日現在で本決算に準じた仮決算を行った計算書類を基礎としております。ただし、連結決算日までの期間に発生した重要な取引については、連結上の必要な調整を行っております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

その他有価証券

- ・時価のあるもの……………連結決算日の市場価格等に基づく時価法
(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)
- ・時価のないもの……………移動平均法による原価法

② たな卸資産

- 商品及び製品……………移動平均法による原価法
(物流センター在庫) (貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法)
- 商品及び製品……………主として売価還元法による原価法
(店舗在庫) (貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法)
- 原材料及び貯蔵品……………最終仕入原価法による原価法
(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産 (リース資産を除く)

建物並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法、それ以外については主として定率法によっております。なお、主な耐用年数は、建物及び構築物2年～39年、車両運搬具6年、工具、器具及び備品2年～10年であります。

② 無形固定資産 (リース資産を除く)

自社利用のソフトウェアについては、主として社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

③ リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、翌連結会計年度の支給見込額のうち、当連結会計年度に負担すべき金額を計上しております。

③ 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えて、内規に基づく当連結会計年度末支給額の100%相当額を計上しております。

④ 役員株式給付引当金

株式交付規程に基づく取締役への当社株式の交付に備えるため、当連結会計年度末における株式給付債務の見込額に基づき計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

当社及び連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。

(6) のれんの償却方法及び償却期間

のれんは、その効果の発現する期間を個別に見積もり、20年以内で均等償却することとしております。ただし、金額的重要性の乏しい場合には、発生年度の損益として処理することとしております。

(7) その他連結計算書類作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式を採用しております。

表示方法の変更に関する注記

(「会計上の見積りの開示に関する会計基準」の適用)

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準31号 2020年3月31日)を当連結会計年度の年度末に係る連結計算書類から適用し、連結計算書類に重要な会計上の見積りに関する注記を記載しております。

会計上の見積りに関する注記

(1) 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

資産除去債務 424,871千円

(2) 会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報

当社グループは、店舗等の不動産賃貸借契約に基づく原状回復義務について、有形固定資産の除去に要する将来キャッシュ・フローを見積り、使用見込期間に対応した割引率で割引いた金額を資産除去債務として計上しております。有形固定資産の除去に要する将来キャッシュ・フローの見積りは、過去に発生した原状回復費用の実績額等に基づいて計算しております。

今後の事業環境の変化、契約内容の変更、経済状況や市況による工事単価の変動等に伴い、実際の支払額と原状回復費用の見積りの間に重要な差異が発生した場合は、翌連結会計年度の連結財務諸表に影響を与える可能性があります。

会計上の見積りの変更

当連結会計年度において、不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務として計上していた資産除去債務について、直近の原状回復費用実績等の新たな情報の入手に伴い、見積りの変更を行っております。当該変更による増加額220,100千円を変更前の資産除去債務残高に加算しております。なお、この変更に伴って計上した有形固定資産の一部については減損損失として処理をしており、当該見積りの変更の結果、当連結会計年度の税金等調整前純利益は87,045千円減少しております。

連結貸借対照表に関する注記

有形固定資産の減価償却累計額 4,544,379千円
減価償却累計額には、減損損失累計額が含まれております。

連結損益計算書に関する注記

該当事項はありません。

連結株主資本等変動計算書に関する注記

1. 当連結会計年度末の発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首の株式数	当連結会計年度増加株式数	当連結会計年度減少株式数	当連結会計年度末の株式数
普通株式	13,958,800株	-	-	13,958,800株

2. 自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首の株式数	当連結会計年度増加株式数	当連結会計年度減少株式数	当連結会計年度末の株式数
普通株式	560,874株	-	-	560,874株

(注) 自己株式の株式数には、役員向け株式交付信託として保有する当社株式60,000株が含まれております。

3. 剰余金の配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2020年11月25日 定時株主総会	普通株式	201,868千円	15円	2020年8月31日	2020年11月26日

(注) 上記の配当金の総額には、役員向け株式交付信託が保有する当社株式に対する配当金900千円が含まれております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

2021年11月25日開催予定の第27回定時株主総会の議案として、普通株式に関する事項を次のとおり提案しております。

決議予定	株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2021年11月25日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	296,074千円	22円	2021年 8月31日	2021年 11月26日

(注) 2021年11月25日定時株主総会決議による配当金の総額には、役員向け株式交付信託が保有する当社株式に対する配当金1,320千円が含まれております。

4. 当連結会計年度末日における新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

金融商品に関する注記

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資産運用については主に流動性の高い金融資産で運用し、また、資金調達については主に銀行借入による方針です。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は顧客の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、関係会社株式及び業務上の関係を有する企業の株式であり、上場株式に関しては市場価格の変動リスクに晒されております。また、差入保証金は、主に来店時に預託したものであり、預託先の信用リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金、電子記録債務は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。

借入金の使途は、運転資金及び設備投資資金であり、返済日は最長で決算日後、概ね5年であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社グループは、受取手形及び売掛金について、与信管理規程に基づき取引先の信用状況を把握し、期日管理及び残高管理を行っております。

差入保証金は、預託先の信用状況を把握し、残高管理を行っております。

② 市場リスク（株式市場価格及び金利等の変動リスク）の管理

当社グループは、投資有価証券について、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握しております。また、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

③ 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社グループは、各社が月次で資金繰計画を作成するなどの方法により管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2021年8月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（注）2. 参照）。

	連結貸借対照表 計上額（千円）	時価（千円）	差額（千円）
(1) 現金及び預金	6,169,208	6,169,208	－
(2) 受取手形及び売掛金	2,150,910	2,150,910	－
(3) 投資有価証券	47,595	47,595	－
(4) 差入保証金	2,289,987	2,285,529	△4,457
資産計	10,657,702	10,653,244	△4,457
(1) 支払手形及び買掛金	3,118,081	3,118,081	－
(2) 電子記録債務	3,145,453	3,145,453	－
(3) 短期借入金	200,000	200,000	－
(4) 未払法人税等	396,644	396,644	－
(5) 未払消費税等	129,894	129,894	－
(6) 長期借入金(※)	924,331	922,143	△2,188
負債計	7,914,406	7,912,218	△2,188

(※) 1年内返済予定の長期借入金は長期借入金に含めて表示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券取引に関する事項

資 産

- (1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

- (3) 投資有価証券

この時価については、取引所の価格によっております。

- (4) 差入保証金

この時価については、回収可能性を反映した将来キャッシュ・フローを償還予定期間に対応する国債の利回り等適切な指標による利率で割り引いた現在価値により算定しております。

負 債

- (1) 支払手形及び買掛金、(2) 電子記録債務、(3) 短期借入金、(4) 未払法人税等、(5) 未払消費税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

- (6) 長期借入金

このうち、変動金利によるものについては、短期間で市場金利を反映することから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。固定金利によるものについては、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額（千円）
関係会社株式	279,835

これについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

区分	1年以内(千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超(千円)
現金及び預金	6,013,312	—	—	—
受取手形及び売掛金	2,150,910	—	—	—
合計	8,164,223	—	—	—

差入保証金については、償還期日を明確に把握できないため、上記の償還予定額には含めておりません。

4. 長期借入金等の連結決算日後の返済予定額

区分	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	200,000	—	—	—	—	—
長期借入金	528,247	274,112	111,972	10,000	—	—
合計	728,247	274,112	111,972	10,000	—	—

1 株当たり情報に関する注記

- 1株当たり純資産額 837円60銭
- 1株当たり当期純利益 72円09銭

(注) 役員向け株式交付信託が保有する当社株式は、1株当たり純資産額の算定上、期末発行済株式総数から控除する自己株式に含めており、また、1株当たり当期純利益の算定上、期中平均発行済株式総数の計算において控除する自己株式に含めております。

1株当たり純資産額の算定上、控除した当該自己株式の期末株式数は60,000株であり、1株当たり当期純利益の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は60,000株であります。

重要な後発事象

(取得による企業結合)

当社は、2021年8月27日開催の取締役会において、株式会社音通エフ・リテール及び株式会社ニッパンの全株式を取得し、子会社化することについて決議し、同日付で株式譲渡契約を締結し、2021年10月1日付で全株式を取得しました。

(1) 企業結合の概要

① 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称	株式会社音通エフ・リテール	株式会社ニッパン
事業の内容	100円ショップ「FLET'S」及び「百圓領事館」等の運営及びフランチャイズチェーン店舗の運営	100円ショップ向け雑貨商品の企画・輸入・販売

② 企業結合を行った主な理由

株式会社音通エフ・リテールは、関西、関東地域を中心に「FLET'S」及び「百圓領事館」等の屋号で100円ショップを約140店舗運営しており、株式会社ニッパンは、100円ショップ向け商材の卸売りを行っております。当社基幹事業である国内100円ショップ事業の店舗網及び事業規模の拡大を図ることで、当社企業価値の向上に資するものと考え、全株式を取得し子会社化いたしました。

③ 企業結合日

2021年10月1日

④ 企業結合の法的形式
株式取得

⑤ 結合後企業の名称
変更はありません。

⑥ 取得した議決権比率
100%

⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠
当社が現金を対価として株式を取得したことによるものです。

(2) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	2円
取得原価		2円

(3) 主要な取得関連費用の内容及び金額

デューディリジェンス費用等 1,000千円

(4) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間
現時点では確定していません。

(5) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳
現時点では確定していません。

その他の注記

減損損失

当社グループは、以下の資産グループについて、減損損失305,506千円を計上しました。

地 域	主 な 用 途	種 類	金 額
北 海 道	店 舗 5 店	建 物 及 び 構 築 物 等	17,337千円
東 北	店 舗 1 店	建 物 及 び 構 築 物 等	1,600千円
関 東	店 舗 49 店	建 物 及 び 構 築 物 等	108,857千円
中 部	店 舗 19 店	建 物 及 び 構 築 物 等	39,964千円
近 畿	店 舗 16 店	建 物 及 び 構 築 物 等	33,627千円
中 四 国	店 舗 11 店	建 物 及 び 構 築 物 等	44,642千円
九 州	店 舗 9 店	建 物 及 び 構 築 物 等	31,802千円
海 外	店 舗 ・ 事 務 所 他	建 物 及 び 構 築 物 等	27,675千円

(経緯)

上記店舗については、継続して営業損失を計上しており、当連結会計年度も営業損失を計上したため、減損損失を認識いたしました。

(グルーピングの方法)

管理会計上の区分に基づいて、主として各店舗及び事務所を基本単位としてグルーピングしております。

(回収可能価額の算定方法)

上記店舗について減損損失を認識した資産の回収可能価額については、いずれも正味売却価額により測定しており、鑑定評価額等によっておりますが、売却や他への転用が困難な資産はゼロ円として評価しております。

個別注記表

重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 有価証券の評価基準及び評価方法
 - 子会社株式及び関連会社株式……………移動平均法による原価法
 - その他有価証券
 - 時価のあるもの……………事業年度末日の市場価格等に基づく時価法
(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)
 - 時価のないもの……………移動平均法による原価法
2. たな卸資産の評価基準及び評価方法
 - 商品（物流センター在庫）……………移動平均法による原価法
(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法)
 - 原材料及び貯蔵品……………最終仕入原価法による原価法
(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法)
3. 固定資産の減価償却の方法
 - (1) 有形固定資産（リース資産を除く）

建物ならびに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法、それ以外については主として定率法によっております。なお、主な耐用年数は、建物及び構築物8年～39年、工具、器具及び備品4年～10年であります。
 - (2) 無形固定資産（リース資産を除く）

ソフトウェア（自社利用）については社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。また、のれんはその効果の発現する期間を個別に見積もり、20年以内で均等償却することとしております。ただし、金額的重要性の乏しい場合には、発生年度の損益として処理することとしております。
4. 引当金の計上基準
 - (1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
 - (2) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、翌事業年度の支給見込額のうち、当事業年度に負担すべき金額を計上しております。
 - (3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。
退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。
 - (4) 役員株式給付引当金

株式交付規程に基づく取締役への当社株式の交付に備えるため、当事業年度末における株式給付債務の見込額に基づき計上しております。
5. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項
 - 消費税等の会計処理
 - 税抜方式を採用しております。

表示方法の変更に関する注記

(「会計上の見積りの開示に関する会計基準」の適用)

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日)を当事業年度の年度末に係る計算書類から適用し、計算書類に重要な会計上の見積りに関する注記を記載しております。

会計上の見積りに関する注記

(1) 当事業年度の計算書類に計上した金額

関係会社株式 643,031千円

関係会社株式評価損 357,284千円

(2) 会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報

関係会社株式は、市場価額がなく、時価を把握することが極めて困難な株式であり、発行会社の財政状態の悪化により実質価額が著しく下落した場合には、回復可能性が十分な証拠により裏付けられる場合を除き、相当の減損処理を実施しております。

今後の投資先の財政状態の変化等により、追加の関係会社株式評価損を計上する可能性があります。

貸借対照表に関する注記

1. 関係会社に対する金銭債権債務

短期金銭債権 9,277,314千円

短期金銭債務 3,637千円

2. 取締役に対する長期金銭債務

長期未払金は、2016年11月25日開催の第22回定時株主総会において、承認可決された役員退職慰労金制度廃止に伴う退職慰労金打ち切り支給にかかる債務であります。

3. 有形固定資産の減価償却累計額 155,778千円

損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

売上高 29,985,582千円

仕入高 9,117千円

営業取引以外の取引高 353,033千円

株主資本等変動計算書に関する注記

自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首の株式数	当事業年度増加株式数	当事業年度減少株式数	当事業年度末の株式数
普通株式	560,874株	—	—	560,874株

(注) 自己株式の株式数には、役員向け株式交付信託として保有する当社株式60,000株が含まれております。

税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因

繰延税金資産

関係会社株式評価損	239,619千円
未払事業税	8,781千円
貸倒引当金	435,631千円
賞与引当金	9,301千円
退職給付引当金	26,845千円
一括償却資産	7,109千円
資産除去債務	7,382千円
長期未払金	25,748千円
その他	47,120千円

繰延税金資産小計	807,540千円
評価性引当額	△682,494千円
繰延税金資産合計	125,046千円

繰延税金負債

除去債務資産	△2,697千円
その他有価証券評価差額金	△4,235千円
繰延税金負債合計	△6,932千円

繰延税金資産純額	118,113千円
----------	-----------

関連当事者との取引に関する注記

子会社及び関連会社等

種類	会社等 名称	資本金 または 出資金 (千円)	事業内容	議決権 の割合	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
					役員 の 兼任等	事業上 の 関係				
子会社	(株)ワッツ 東日本販売	10,000	100円ショップの運営	100%	兼任3名	当社商品 販売	商品販売(※1)	14,254,597	売掛金	2,554,062
							貸付金貸付(※2)	1,880,319	短期貸付金	2,040,797
							利息の受取(※2)	14,105		
子会社	(株)ワッツ 西日本販売	10,000	100円ショップの運営	100%	兼任3名	当社商品 販売	商品販売(※1)	15,332,181	売掛金	2,740,420
							貸付金貸付(※2)	1,597,897	短期貸付金	1,667,237
							利息の受取(※2)	12,072		
子会社	(株)ワッツ・ コネクション	10,000	雑貨店の運営	100%	兼任4名	資金の援助	貸付金貸付(※2)	570,613	長期貸付金	586,193
							利息の受取(※2)	4,322		
子会社	(株)ヒルマー・ ジャパン	20,000	北欧雑貨店の運営	100%	兼任3名	資金の援助	利息の受取(※2)	10,068	長期貸付金 未収入金	1,016,500 31,685

(注) 1. 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

※1 商品販売につきましては、一般的取引条件と同様に決定しております。

※2 資金の貸付につきましては、市場金利を勘案して設定しております。また、担保の受入はありません。

3. 子会社に対する資金の貸付・回収は反復的に取引が行われていることから、取引金額は主に月末平均残高を記載しております。

4. (株)ワッツ・コネクションの長期貸付金に対し、434,184千円の貸倒引当金を計上しております。また、当事業年度において117,759千円の貸倒引当金繰入額を計上しております。

5. (株)ヒルマー・ジャパンの長期貸付金に対し、989,923千円の貸倒引当金を計上しております。また、当事業年度において10,206千円の貸倒引当金戻入額を計上しております。

1 株当たり情報に関する注記

- | | |
|---------------|---------|
| 1. 1株当たり純資産額 | 676円06銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 16円71銭 |

(注) 役員向け株式交付信託が保有する当社株式は、1株当たり純資産額の算定上、期末発行済株式総数から控除する自己株式に含めており、また、1株当たり当期純利益の算定上、期中発行済平均株式総数の計算において控除する自己株式に含めております。

1株当たり純資産額の算定上、控除した当該自己株式の期末株式数は60,000株であり、1株当たり当期純利益の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は60,000株であります。

重要な後発事象

(取得による企業結合)

当社は、2021年8月27日開催の取締役会において、株式会社音通エフ・リテール及び株式会社ニッパンの全株式を取得し、子会社化することについて決議し、同日付で株式譲渡契約を締結し、2021年10月1日付で全株式を取得しました。詳細については6頁をご参照ください。

(多額の資金の借入)

当社は、株式を取得した株式会社音通エフ・リテール及び株式会社ニッパンの借入金の借換えや設備投資費用等への充当を目的として、以下のとおり借入を実行いたしました。

- (1) 借入先：取引先金融機関5行
- (2) 借入金額：2,700,000千円
- (3) 借入利率：固定金利
- (4) 借入実行日：2021年9月30日
- (5) 返済期限：5年～10年
- (6) 担保提供資産又は保証の内容：無し

その他の注記

該当事項はありません。